Radio On The Street
西谷文和

路上のラジオ
ファンクラブニュース

2023.11.18
第18号

発行責任者：西谷文和
連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33
TEL 06-6170-4757
メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送しています。今後も年に４回程度発行します。

●ラジオの聞き方
スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索してください。YouTube で聞けます。
チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせが来るので便利です。

このまま強行すれば万博崩壊
維新は工事を即時中止し、謝罪して賠償せよ

建設費が約2倍に

大阪万博の建設費が2度目の上振れ、その費用は1250億円↓1850億円↓2350億円と青天井でふくれあがっている。吉村知事は「資材が高騰したから仕方がない」と言い訳に終始しているが、これは全くのウソ。まず「世界最大の木造建築だ」と大威張りだった全周2キロの大屋根リングに350億もかかる。「なんでこれが必要？」「日陰を作るためでございます」。自見万博大臣の答弁に、ずっこけた人も多かったに違いない。上振れ原因の1つが、工期の遅れ。なぜ万博工事の入札が不調で、いまだに更地なのか？ それは夢洲が①想像以上の軟弱地盤で、80mの杭を何百本も打たないと建設できない。②アクセス道路が橋とトンネルだけなので、工事資材さえも運べない。ゼネコンの立場からは「パビリオンの建設費上振れ確実。赤字分を本当に外国が支払ってくれるのか？」と躊躇し、逃げている訳で、おそらく2350億円では止まらない。工期の遅れはさらなる資材価格、人件費高騰につながる。開催までに間に合わせようとすれば、さらに税金をつぎ込むことになる。その結果、東京オリンピック同様、税金をじゃぶじゃぶつぎ込んだ上での「しょぼーい万博」になることは確実だ。

どんどん膨らむ建設費。中止の英断が早いほど出血は少ない

経済効果2兆円の大ウソ

最近の吉村や横山の記者会見で目立つのは「それでも経済効果は2兆円もあるんです！」というウソ。カジノでもそうだが、この「経済効果」が曲者で視聴者は「ふーん、そんなものか」と聞き流す。でもこれは明らかなウソ。しょぼーい万博の入場料7500円を支払い、夢洲に行って回転寿司を食べたとする。確かにこれで2万円程度の「効果」はある。しかしその人は会社命令で無理やりチケットを買わされ、酷暑の中、仕方なく「どこでも食べられる普通の寿司」を食べた。本当ならUSJに行きたかったが、我慢し

た。万博で2万円の「効果」は、USJの方が楽しく、その後ホテルに泊まってくれたとしたら5万円の「効果」を犠牲にしたもの。つまり最低でも差し引きゼロ、下手したら「あまりにもしょぼい万博、日帰り」となりマイナスかもしれない。カジノはもっと悲惨だ。松井、吉村、馬場が口を酸っぱくして、「何兆円もの経済効果で、大阪は儲かりまっせ」と言う。カジノで大負けした客の掛け金は、カジノがなかったら、家族で地元のレストランで食事したお金、子どもと一緒に海水浴に出かけることができたお金、でもある。もし町工場の社長がカジノにはまって倒産させてしまえば、従業員は路頭に迷う。明らかな損失。

韓国では5兆円のマイナス

　韓国カジノはどうだったか？経済効果は賭場で上がる収益年間2兆円に対し、依存症対策や失業した人への手当、反社会的集団いわゆる「その筋の人たち」対策費、犯罪が増えることに対する警備費などで年間7兆円の出費。差し引き5兆円！のマイナスなのである。イソジンを高々と持ち上げて「今からウソのような本当の話をします」。お前はネズミ講の親玉か！と突っ込まれたマルチ吉村は、またまた「万博で経済効果2兆円」の大ボラを吹いているのだ。ちなみに松井はかつて「万博の経済効果は6兆円」とハッタリをかましていた。もし記者クラブの記者たちが、「いつ6兆円が2兆円になったんですか？」「なぜマイナスの効果を試算しないんですか？」「空飛ぶ車が墜落して死傷者が出たら、誰が責任を取るのですか？」。鋭く切り込んでいれば、視聴者も気がつく。残念ながら在阪メディアは「万博の側」「吉本興業の側」「カジノ利権の側」にいるので、「吉村の言い訳記者会見」をダラダラ流すだけだ。なので、このラジオで対談した内容や夢洲現地取材ルポ、情報公開で出てきた資料などを基に、「万博崩壊。どこが身を切る改革か？」を出版することになった。今後も路上のラジオはもちろん、デモクラシータイムズやARCタイムズで追及する。引き続きのご愛聴をよろしくお願いしたい。（本文含め全て敬称略）

シリーズ化したデモクラシータイムズ。合計100万回以上視聴されている

23年11月末　緊急出版

万博崩壊～どこが身を切る改革か!～

予約販売受付中

　この夏、夢洲に5回足を運び、全然進まない工事現場をドローンで撮影。このまま強行すれば木造リングの中にパラパラのパビリオン、プレバブが並ぶだけの「大阪更地万博」だ。

　わずか半年の万博に下手すれば1兆円の血税がつぎ込まれて行くのはなぜか？その答えは夢洲カジノ。民間のカジノ業者のための上下水道、高速道路、土壌改良などを「万博の名目で、税金使って整備する」。これが強行する側の本音である。そこにあるのは利権だけ。この本が万博中止！吉村辞めろ！の大きな運動の起爆剤になることを期待している。

小出先生に聞く　その12
ウクライナの原発が攻撃されれば…

「（前号はウクライナ・ザポリージャ原発の危機について。今回はその後半です）

—ロイター通信によりますと、ロスアトム（ロシアの原発企業）の主任検査員3名がクリミア半島へ、ロスアトムと契約するウクライナの作業員たちは7月5日までに避難せよという指示が出たそうです。もし作業員がいなくなるとどうなりますか？

小出　そうなれば使用済み燃料プールを冷やすことができなくなりますから、いずれ放射能が飛び出す事態になります。でも日本では、戦争に関しては西側情報しか流されていません。ザポリージャ原発の作業員が全員いなくなるということは到底ありえません。（注：作業員は今も逃げずに冷やし続けてくれています）現在、原発はロシアが占領しているのですが、もしそこで燃料が溶けるなどの事故が起きれば最大の被害は、親ロシア系の住民が住んでいるドニプロ川東岸ですし、その東にはロシアがあります。つまりロシアは原発の安全を何としても守らなければいけない立場にいます。まぁ戦争ですので、今後どうなるのか、心配してはいますが。

—西風でロシアへ。チェルノブイリでもベラルーシに流れて行きました。

小出　あの時は南風が吹いて北のベラルーシ、ロシアにも行きました。当時は東風も吹いたので、ヨーロッパも汚染されました。

砲撃を受けて燃え上がるザポリージャ原発。
キーウのチェルノブイリ博物館で

—核戦争になるかもと言われていますが、そもそも原発そのものが、現実的には核兵器以上に危険な存在？

小出　そうです。例えば熔け落ちてしまった福島第1原発の中には、広島原爆に換算して7900発分ものセシウムがありました。原爆とは比較にならないほどの猛烈な放射性物質を抱えながら運転する機械なわけです。それが破壊されたら通常運転の原発で生じる汚染の何千倍という汚染が生じてしまいます。ですからもし「敵国を攻撃しよう」というのなら、原爆を落とさなくても、ミサイルで原発を潰してしまえばそれで終わり、です。戦争を心配するのであれば、原発なんか持ってはいけないのです。

—ザポリージャ原発が危険である、ということが大手メディアではほとんど流れません。ロシアが勝ってる、ウクライナが反撃した、ばかり。やはり「再稼働させたい」というスポンサーへの忖度があるのでしょうね。

小出　日本は原子力をこれからもやるんだと言ってる国です。岸田内閣の政策は大きな2つの柱があって、1つは防衛費の増額。戦争に備える、と。もう1つは原発をどんどん進める。でももし、戦争ということを考えるならば、原発だけはやってはいけない。つまり全く相容れないことを2つ同時にやろうとしているのが岸田内閣です。マスコミはこれをキチンと言わなければいけないのに、残念ながら腐り切っていて、このラジオ番組くらいしか、言ってくれないのです（苦笑）。

—税金で人殺しの武器を買う。原発を再稼働させて事故があれば、税金で補償する。どちらも即刻止めるべき愚策ですね。

小出　日本のみなさんは、自分たちが今、地獄に引きずり落とされているのだ、と気が付かなければいけないのです。でも残念ながらマスコミ自身が報道しないという状態になっていて、だんだん戦争中の大本営発表のような報道ばかりになっているんだな、と私は心配しています。

—よく分かりました。今回も貴重なお話をありがとうございました。

祝島に行ってきました

11月4、5日に山口県上関町の祝島を訪問した。「西谷文和のウクライナ最新報告・ザポリージャ原発の危機」というポスターが島中に張り巡らされている。かなり恥ずかしい（笑）。ちなみに山口県には上関、中関、下関があり、京都に近い順に上中下となっている。

反対運動の歴史を感じる看板が

今回は、私が島民たちから41年にわたる原発反対の闘いを聞き取り、島民たちは私からウクライナ戦争と原発の危険性について話を聞く、という交換講演会のような取り組み。

ここに隠れるように暮らしていた

3・11以後、いったんは原発計画が頓挫したかのように見えたのだが、またまた「使用済み核燃料中間貯蔵施設の誘致」問題が降りかかってきた。豊かな海と山に囲まれて、「ただ静かに農業をしたい。魚を獲っていたい」という島民たちを、またまた原子力ムラたち、金の亡者たちが島民を苦しめ始めた、という図式。講演会会場となった公民館のすぐそばに古びた旅館があった。ここはあのA級戦犯容疑者の岸信介が巣鴨から釈放された後、隠れるように住んでいたところ。本当なら国民の前に出て来て、謝罪すべきはずの岸信介。山口県の故郷にも帰れず、人里離れた離島で、島民の人の良さに助けられて、ひっそりと暮らしていたのだ。

「昭和の妖怪も、その孫も同じ体質や」。旅館の前で思わず愚痴ってしまう。桜を見る会では108回もウソをつき、都合が悪くなると「お腹が痛い」と逃げる孫。祖父が世話になった島に、孫が原発を押し付ける。なんでこんな一族が日本を牛耳っているのか？妖怪と妖怪の孫の罪は重い。

編集長より

大学で放送を教えていますが、メディアの役割をお伝えする授業もします。私は何よりも第一に「権力の監視」だと伝えつつ、放送人の端くれとして忸怩たる思いでいるのも確かです。授業では、本当に安倍政権以降のメディアの体たらくは、ひどいものだとも付け加えます。ピンと来ない学生のためには、ジャニーズ性被害問題を例に、それが「メディアの沈黙」がもたらした結果だと説明します。それを政治に置き換えた時、「被害者」は、あまねく全国民に及ぶのだと。しかも知らされないことは、誤った情報にふれるのと同じくらいに重大な結果を招くこともあるのだと。

権力は放っておいても大きな声を出せるわけですから、社会の隅にひびく小さく震える声を増幅することこそ、マスコミの使命だと私は思っています。私が愛するラジオも、戦時中は大本営発表とする虚偽のニュースを流し続けたわけですし、新聞もしかりです。その過ちを二度と繰り返してはならないのは、人として何よりも大切なのが「いのち」であるからです。福島第一原発事故の真実を発災当時から発信しつづけた小出裕章さんの声を拾い上げたMBS「たねまきジャーナル」も終了に追い込まれたわけですし、それを応援し続けたリスナーの意思を継ぐ番組としてのこの「路上のラジオ」も、ますますがんばらなければならない時代と言えそうです。

メディアは政治やスポンサーはじめいかなる権力からも独立している必要があるのは言うまでもないことですが、組織としてのメディアを構成しているのは人であるわけで、ひとりひとりのメディア人の強い信念、正義、こだわりこそがすべてだと私は思います。テレビ朝日のジャニーズ報道の検証番組の中で、インタビューを受けた局員が「サラリーマン局員の限界」などと話していたのがショックでしたが、自分に置き換えてみたらどうだろうとも思いました。誰もが生活もあれば、お金も必要でしょう。忖度なく正義を貫くのはそんなに甘くないのかもしれません。ただ、少なくとも、公務員を辞めフリージャーナリストとして何事にも臆せず自由に世界を飛び回る西谷文和氏がそばにいて、「路上のラジオ」をご一緒いただけていることは、一放送人としての私の、大きな心の支えでもあります。がんばって参ります。リスナーの皆様、これからも「路上のラジオ」をどうぞご愛聴ください。

（ディレクター・山本 索）

編集後記

昨年末くらいからほぼ毎週発信に努めています。ゲストを呼んで収録して、編集してオンエア。めまぐるしい自転車操業ですが、やりがいがあります。大マスコミが報じないから、私たちのラジオが生き残る。万博を強行するから本が売れる。吉村よ、万博突き進め（笑）。冗談です、本が売れなくてもいいから、早くやめろ！